

春の森を歩いてみよう ～スプリングエフェメラルについて紹介～

皆さんはスプリングエフェメラルという言葉聞いたことがあるでしょうか？「春のはかない命」という意味で、雪解けの頃に早く花を咲かせる植物達のことです。春の一時期にのみ姿を見せ、夏の緑が茂る頃には姿を消してしまいます。地上で花を咲かせ、種を付けるまでわずか2週間という植物もあります。

地上部が枯れた後は、地下茎や球根の姿で一年の大半を過ごし、来年の春に向けて地中で養分を蓄えています。

背が低く華奢な花達は、森の木々が葉を広げてしまう時期には日光を浴びて光合成をすることができません。他の植物が目覚める前の、林床に光が届くうちに早く日の光を利用し、林床が暗くなる頃には地上部を枯らして休眠状態に入ることによって、夏に十分な光が当たらない環境でも生きのびることができます。春だけの光合成で栄養を蓄え、残りの期間は休眠するというサイクルのため、成長の速度は非常にゆっくりとしています。スプリングエフェメラルは、成長の早さを犠牲にして、耐陰性を持たずして林床で生き延びる術を手に入れたことで、厳しい生存競争の中を生き抜いてきた、はかないようで強い植物といえるのではないのでしょうか。



カタクリ

クマバチやマルハナバチなどの昆虫によって送粉される虫媒花です。種子が発芽してから8年程かけて花を咲かせます。片栗粉の粉は、元々カタクリの地下茎から作られていました。



ニリンソウ



フクジュソウ

春の森で美しい森の妖精に出会えるかもしれません。皆さんも小さな春を感じてみてください。

早春に活動するツマキチョウなどの昆虫達も呼ばれて花を訪れるよ



ツマキチョウ

森づくりボランティア制度ガイド発行しました！

今年度、森づくりを行うボランティアの皆様向けに、森づくりボランティア制度ガイドを発行しました。制度の概要や支援の内容、各種申請の仕方を掲載しています。ぜひご覧いただけますと幸いです。



貸し出し道具の例の紹介

下記ホームページに掲載しています。

横浜市 森づくりボランティア 支援の仕組みと手続き

各種支援の窓口も掲載していますので、ご相談の際はこのガイドを参照いただき、ご遠慮なくお問い合わせください。

発行責任者：環境活動事業課森づくり担当

よこはまの森 ニュースレター No.124

横浜市みどり環境局環境活動事業課
〒231-0005 横浜市中区本町 6-50-10

TEL 045-671-2624 FAX 045-550-4554

よこはまの森
ニュースレター HP



森づくりを担う人材の育成事業の財源の一部に横浜みどり税を活用しています。

道具の使い方研修受けてみませんか？

横浜市では森づくり活動をこれから始めてみようというボランティアの皆さんや経験の浅い方向けに道具の使い方研修を開催しています。

道具の使い方研修を受けたことがない人は今後の活動に向けて、受けたことがある人は改めて基礎を学んでいただく機会となっています。これから暖くなる季節に向けて、ぜひ参加をご検討ください。

道具の使い方研修の開催状況（令和6年6月）



まずは座学で安全管理について学びます。

森づくり活動を行う際に安全な恰好や危険な動植物や場面などについて、講義を行いました。



剪定バサミの使い方を実践。剪定バサミは剪定作業だけでなく、切った材の処理などでも使用します。



ロープワークについても学びました。スキルアップするとロープを使った伐倒など森づくりではロープワークが必要になる場面もあります。

ノコギリで丸太切りにも挑戦。垂直に刃を入れて、引くときに力を入れて切ります。

安全な道具の使い方を学び、今後の森づくり活動に活かしていただけると幸いです。

令和7年5月以降に環境活動支援センターより募集開始の予定です。

(※対象者は横浜市の森づくりボランティア登録者、市民の森愛護会、ふれあいの樹林愛護会、森づくり活動団体の方に限られます)



最新の情報はホームページでお知らせしますので、ご確認の上、お申し込みください。

横浜市 森づくり研修

■研修お問合先■

横浜市みどり環境局 環境活動支援センター
住所 〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町 213
電話 045-711-0635・FAX 045-721-6356



上矢部ふれあいの樹林 愛護活動紹介！

上矢部ふれあいの樹林愛護会の概要

- ★上矢部ふれあいの樹林では開園の2年前から愛護会の準備が進められ、平成9年に横浜市で11番目のふれあいの樹林として開園すると同時に愛護会が発足。
- ★愛護会では結成当初は畑の活動から開始し、現在では日常の清掃や森の保安全管理・育成のための活動、市民参加のイベント等ふれあい活動を実施。
- ★平成23年から近隣の谷戸矢部池公園で竹灯籠祭りが行われ、お祭りには上矢部ふれあいの樹林で間伐した竹が使用されている。
- ★会員数：約20名（令和7年3月現在）
- ★活動日：月2回（日曜日9時半～12時）



上矢部ふれあいの樹林は JR 東海道線沿線（戸塚駅）の小高い丘に位置する樹林地です。クヌギやコナラの雑木林や竹林が広がっています。竹林の竹は七夕祭りや竹灯籠祭りのイベントに使われています。春にはこの森で採れる筍を近隣の老人ホームや連合自治会の主催する食事会で提供もしています。

この森では地域の人に愛され、親しんでもらえるような場所にしたいと、日常の清掃や竹の間伐、常緑樹の除伐など森の育成のための活動を地域の愛護会の皆さんが行っています。

竹は成長が早く、定期的な管理を行わないとすぐに鬱蒼とした薄暗い竹林になってしまいます。こうした日頃の管理作業によって、良好な森の環境が保たれています。森の本来の植物を大切にしながら、竹林はエリアを決めてそれ以上増えすぎないように管理しています。



ふれあいの樹林の入口



愛護会総務の中島さん

自治会の活動など地域の活動にも積極的に尽力されています。森づくり体験会では中心となってボランティアの皆さんを受け入れていただき、ご指導いただきました。



森づくり体験会での竹の間伐作業

ここ数年、横浜市主催の「森づくり体験会」や「よこはま森の助っターズ」にもご協力いただき、多くの個人のボランティアの皆さんがこの森で活動に触れ、森づくり活動の意義や森づくり作業を学ぶことができました。

愛護会では高齢化が進んでおり、若い人が中々入って来ないということもあり、体験会や助っターズで愛護会の活動に触れていただくことや、お近くの方は愛護会に直接コンタクトを取り、会員になっていただくことも大歓迎とのことです。愛護会の活動日や本市の体験事業で上矢部ふれあいの樹林にぜひ訪れてみてください。

愛護会連絡先：上矢部ふれあいの樹林愛護会総務 中島氏 080-1388-9025



シンボルツリーのコブシ

電車の車窓からも見える上矢部ふれあいの樹林のシンボルツリーのコブシは春になると真っ先に山を白く染めて春の訪れを告げてくれます。



コブシの花

地域の竹灯籠祭りでは、近隣の小中学校や高校の子供たちが参加し、この森で提供した竹から作られた竹灯籠に絵付けなどをして竹灯籠を作っています。

上矢部ふれあいの樹林では、去年は間伐で切った竹のうち、竹灯籠用に70本程の竹を提供しました。竹灯籠祭りではその竹から、400～500個の竹灯籠が作られます。切った竹はカビや虫食いを防ぐために火であぶって油抜きをしています。

お祭りで光を灯した後の竹灯籠は自分で作ったものを子供達に持ち帰ってもらっています。

他にも、愛護会では様々な竹細工も作られています。こうして、間伐した竹を無駄にすることなく、地域で楽しんでもらい、有効に活用されています。



竹灯籠祭りの竹灯籠



愛護会で作った竹細工

森の活動をしている中で、この場所を誰もがいられる居場所になることを目指しているそうです。地域の障壁のある方々を呼んで筍掘りを体験してもらったり、火災の通報があった際には避難場所としても開放されていました。

こうした地道な活動が地域に愛される森をつくっているのですね。

日頃の活動の様子を紹介したいという愛護会や森づくり活動団体の方はぜひ環境活動事業課までご相談ください！活動の内容をニュースレターで紹介します。